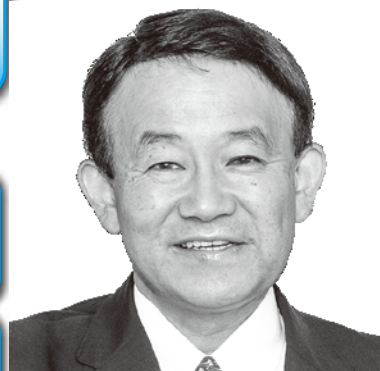


「雄志」61号

衆議院議員

谷田川
はじめ



国民民主党千葉県第10区総支部

谷田川はじめ後援会事務所

〒287-0001 千葉県香取市佐原口 2164-2

TEL 0478-54-5678 FAX 0478-52-6991

Mail: info@hajime-yatagawa.com

HP: www.hajime.yatagawa.com

国会事務所

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-2-1

衆議院第一議員会館 1208 号室

TEL 03-3508-7292 FAX 03-3508-3502



野党の役目は、政府与党が拾わぬ民の声をすくい上げること

7月21日に実施された参院選挙に際しましては、千葉県選挙区では、長浜博行氏に、また比例区では私が所属する国民民主党に対して、ご支援を賜りまして誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

6ページに詳しく掲載しましたように、長浜氏は三選を果たし、国民民主党は選挙区と比例区合わせて6議席を獲得することができました。

自民と公明をあわせて改選議席の過半数を許したものの、憲法改正に必要な3分の2の改選勢力の構築を阻止できたことは、野党にとって一定の成果をあげることができたと言えます。特に32の一人区では、野党等一候補が10県で勝利することができました。3年前の11には及びませんでした。野党が結束して戦えば、自公両党に十分対抗できることを如実に示しています。衆院の選挙区はすべて一人区ですので、間違ひなく2年3ヶ月以内に行われる衆院選挙に向けて、野党の協力体制をしっかりと築いていくべきだと思います。

お蔭様で、3月14日に繰り上げ当選で、6年3ヶ月ぶりに国政復帰し、早百日以上が経過しました。この間、本会議と委員会計3回の質問に立ち、いずれも衆院解散の問題点を追求し

ポスター掲示 ご協力をお願い

参院選挙が終わり、次の国政選挙は2年3ヶ月(任期満了は2021年10月21日)以内に実施される衆院選挙です。今の制度では、総理大臣が解散すると決めたら、それを阻止する手立てはありません。それ故、衆院は「常在戦場」と言われています。そこで谷田川はじめの認知度を一層高めるためA1版の新しいポスターを作成しました。是非、ご自宅の壁や塀等に貼らせて頂きたいとご協力をお願い致します。



○後援会ニュース「雄志」定期購読会員募集

谷田川はじめと支援者を結ぶ機関紙「雄志」を年4回発行しています。あなたのご意見を反映します。

年会費一口2,000円(何口でも可)

購読料のお振込先

郵便振替口座 00110-9-390288「谷田川元後援会」

【谷田川はじめの略歴】

1963年1月17日香取市生まれ

- ・千葉県立佐原高校卒業
- ・早稲田大学政治経済学部卒業
- ・千葉県議会議員4期連続当選
- ・衆議院議員2期当選・松下政経塾出身

冠婚葬祭等の情報がありましたら、谷田川事務所までご連絡下さい。

メッセージの手配をさせて頂くとともに、日程調整がつけば、谷田川はじめが顔を出させて頂きます。

国会見学のお知らせ

谷田川はじめ事務所では、随時国会見学を受け付けております。事務所スタッフがご案内致します。お子様からご年配者まで大歓迎！詳しくは国会事務所までご連絡下さい。



<問合せ先>

国会事務所

電話 03-3508-7292

担当：森

千葉県第10区在住のお知り合いの方を是非ご紹介下さい。



ご連絡お待ちしております

TEL 0478-54-5678

FAX 0478-52-6991

ました。

総理大臣が有利な時に衆院解散総選挙を強行することを認めているかぎり日本は成熟した民主主義国家と言えません。何とか総理の恣意的解散を封じる手立てを講じることができるようあらゆる努力をしたいと存じます。

さて、安倍総理が政権復帰して、今年12月25日で丸7年。第一次政権と合わせると11月20日で桂太郎氏を抜いて、憲政史上最長の政権になるとのことです。国会審議で、野党の質問にまともに答えようとしない安倍総理の姿を見て、どうしてこんなに長く政権を維持させてしまったのかと反省せざるを得ません。少なくとも私の周りには、安倍総理に対する不満や不信を口にする人は大勢います。それが野党の支持にうまく結び付いているようです。

米国政治学の大御所と言われたロバート・ダールイール大学名誉教授(5年前に98歳で死去)は、『野党』は「選挙権」「議会制」と並ぶ民主主義の三大発明であり、与党が拾わぬ民の声をすくい上げる「野党」という機能は民主主義に欠かせない」と述べています。

与党が拾わぬ声をしっかりとすくい上げ、それを政策で具現化できれば、野党への支持は広がるはず。そのことを肝に銘じ、日々の活動を展開していきたいと存じます。

令和元年8月

谷田川はじめ

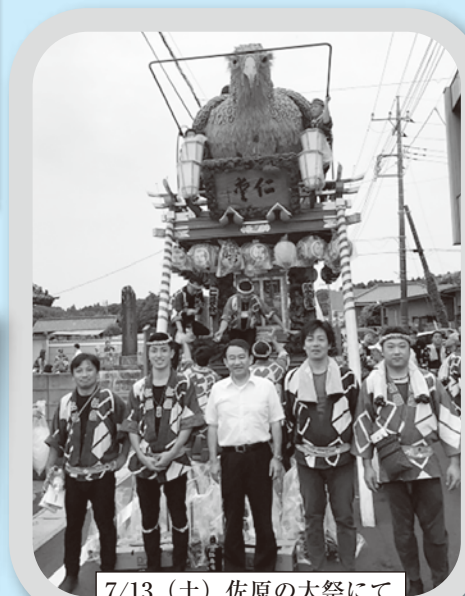
はじめての活動写真



7/10 (水) 八坂神社祇園祭

7/3 (水) 旭市養豚推進協議会
主催肉豚共進会懇親会

7/15 (日) 水郷杯ソフトテニス大会



7/13 (土) 佐原の大祭にて



6/20 (木) 香取市国際交流協会総会

6/9 (日) 佐原高校同窓会
大栄支部総会7/8 (月) 3 JA 合併契約書
調印祝賀会7/11 (木) (銚子市、旭市、
匝瑳市) 広域最終処分場
建設工事起工式6/29 (土) 千葉県消防協会
香取支部ポンプ操法大会

7/2 (火) 国民民主党千葉県連で千葉県立佐原病院視察

6/22 (土) 千葉県トラック協会
香取支部懇親会6/20 (木) 千葉県神社総代会
香取支部総会7/3 (水) 3 道路 (国道 51 号・356 号、県道
成田小見川鹿島線) 整備同盟合同定期総会

7/14 (日) 加良部将棋大会

〔玉木国民民主党代表を お迎えしての国政報告会〕

銚子市後援会長
砂村一男さん開会の辞を述べた
鎌倉金 銚子市議三選を目指す
長浜博行参議院議員越川市長のメッセージを
代読した井上明美さん時局講演を行う
玉木雄一郎 国民民主党代表国政報告を行う
谷田川はじめ根本吉則さんによる
力強いガンパローコール玉木雄一郎代表との
熱い質疑応答

6月29日(土)、銚子市谷田川はじめ後援会主催による『国政報告会』が銚子市市民センターにて開催されました。地元銚子市の鎌倉金市議会議員の開会の辞、そして砂村一男後援会長の挨拶の後、来たる参院選挙で三選を目指す長浜博行氏が決意表明。長浜議員は自らの政治姿勢である『ガラス張りの政治』を掲げ、自分への支援を呼びかけました。

地元の井上明美さんより、銚子市越川信一市長からのメッセージが披露された後、谷田川はじめが国政報告。まず過去3回の質問をまとめた6分間の映像が上映されました。そして、大義なき衆院解散の強行により、国政の適切な運営が損なわれていると指摘、今後は恣意的な解散を制限する制度創設の必要性を力説。さらに『地域起こし協力隊』助成制度が、谷田川はじめの働きかけにより銚子市にも適用が認められたことを紹介しつつ、地域の活性化、真の地方創生を目指すことを訴えました。

次に、国民民主党玉木雄一郎衆院議員が登場。全国で教育格差が広がっている実態を指摘し、格差の解消を訴えました。また、先の国会における政府の不誠実な対応を批判。忖度するまとはない政治を変えていくため、谷田川はじめ、長浜議員に力を貸してほしいと、来場者の皆さんに呼びかけました。その後の玉木代表との質疑応答では閉会直前まで熱いやり取りが繰り返されました。

最後に、連合千葉東総務局長の根本吉則さんの力強いガンパローコールのもと、盛会のうちに終了となりました。

なお、谷田川はじめのホームページから、当日の谷田川はじめと玉木代表の国政報告を動画で視聴頂けます。

「2日連続で上甲晃先生の講演会を開催」



再選を果たした
谷田川充丈 千葉県議



国政報告を行う
谷田川はじめ



長浜博行 参議院議員



講演される
上甲晃 志ネットワーク代表



6/9の講演会で司会を
努めた加藤裕太市議



山崎義則 光後援会長による
ガンパローコール

谷田川はじめが松下政経塾在籍中、塾頭としてご指導頂いた志ネットワーク代表上甲晃先生をお迎えしての講演会が6月8日(土)に東総文化会館で開催。冒頭、谷田川はじめの実弟である谷田川充丈千葉県議が4月の選挙で二期目の当選をしたことに対する御礼の挨拶があり、その後谷田川はじめが国政報告。衆参ダブル選挙もあり得る状況なので、気を引き締めて活動するとの力強い決意表明がありました。続いて上甲晃先生が登壇。「国家百年の計に立つ政治」を実現すべく、全国的な運動を開始したことを披露。

長期的な視点で国家経営ができる政治家を養成しようとしたのが、松下政経塾。その卒業生である谷田川はじめへの強い期待が表明されました。また、選挙を目前に控えた長浜博行参議院議員も駆け付けて挨拶。最後は、光地区後援会山崎義則会長の発声でガンパローコールが行われ、約三百五十名の来場者が長浜氏の必勝を誓い合いました。

翌9日(日)には、小見川市民センターにて、20〜40歳代の方々を対象にして「青年を志を抱け」という演題で上甲晃先生に公演して頂きました。司会者は、香取市議会最年少32歳の加藤裕太市議。約50名の参加者は、熱心に耳を傾け、とてもためになる話が聞けたと満足している様子でした。

上甲晃先生の講演は、谷田川はじめのホームページから視聴できますので是非ご覧ください。

【長浜博行参院議員が3選！】

7月21日に投開票の参院選挙では、千葉県選挙区で国民民主党が支持する長浜博行参議院議員が、三選を果たしました。

また、谷田川はじめが所属する国民民主党は、選挙区で3、比例区で3、合計6議席を獲得しました。皆様のご支援に深く感謝いたしております。



当選報告で万歳三唱



京成成田駅での
駅頭活動(6月12日)

(千葉県選挙区・定数3)

		長浜 博行	自由民主党		共産党
			石井 準一	豊田 俊郎	浅野 史子
千葉県選挙区		当選 661,224	当選 698,993	当選 436,182	次点 359,854
千葉10区	銚子市	5,348	6,125	4,742	2,645
	成田市	10,941	13,530	8,921	5,865
	旭市	4,752	7,996	4,887	2,176
	匝瑳市	2,643	4,008	3,834	1,768
	香取市	7,389	7,638	5,852	3,568
	神崎町	843	1,166	676	405
	多古町	1,329	1,922	1,385	731
	東庄町	1,207	1,877	1,442	453
千葉10区 計		36,276	48,180	33,654	18,777

今 世界から注目されているベンチャー企業 (株)TBM 山崎敦義社長を訪問

紙やプラスチックの代替となる新素材を開発した(株)TBMの本社(東京都中央区銀座)を谷田川はじめが6月2日に訪問。山崎敦義社長と対談し、同社の「志ある経営」の一端に触れました。

そもその出会いは、上甲晃先生が6月1日に都内で「国家百年の計に立つ政治を目指す会」を旗揚げした際、その会合で山崎社長が「未来への挑戦」と題して、講演したことに始まります。新素材は、石灰石からできています。石灰石は、英語で Limestone。それに未知の無限の可能性を示す X をつけて、LIMEX(ライメックス)と名付けられました。紙を1トン作るのに、20本の木と100トンの水が必要であると言われています。また、プラスチックには石油が必要です。LIMEXの主原料は、石灰石であり、世界中に無尽蔵に存在しています。したがって砂漠のど真ん中でも「紙の産地」になり得るし、石油を輸入に頼る国でも自給が可能です。特にプラスチックの海洋汚染が深刻な問題になり、プラスチックの代替品への移植が議論されていますが、TBM社としては、LIMEXを自社で生産するだけでなく、現在プラスチックを生産している企業にLIMEXを生産してもらえるような技術開発を手掛けているとのこと。まさにこの経営方針は、「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三方よしと呼ばれる近江商人の心得を実践していると感じた次第です。LIMEXは現在、世界40ヶ国以上で特許を取得・申請中で、今後の同社の展開に大いに注目するとともに、日本を代表する企業に飛躍して欲しいと思います。



山崎社長と対談する谷田川はじめ

衆議院内閣委員会で鋭く質問！

5月29日(水)、谷田川はじめは衆議院内閣委員会で、天皇陛下への内奏と衆議院解散について、質問に立ちました。

『内奏写真の公表問題について』

【谷田川はじめ】

「先日、安倍総理から陛下への内奏の様子写真と映像が公表されたが、戦後、天皇陛下への内奏を行った政治家で安倍総理以外で、その写真や映像を撮ったことがあるか？」

【宮内庁】

「確認したところ、ございません。」

【谷田川】

「これは重大問題だ。官房長官に質問します。宮内庁から問い合わせがあった段階で、総理が天皇陛下を政治利用しているとの批判が起りかねないと言って公表を拒むべきではないか。」

4年に一遍を確立すべきではないか。」

【菅官房長官】

「貴重な御意見として伺っております。国会の中で改革しなければならぬ点は、与野党問わずたくさんあると思う。これを一つずつ、これを一つの契機として良い方向に進めていくことも大事だと思います。」



6月4日発売の週刊誌『サンデー毎日』（2019年6月16日号）で谷田川はじめの活動が取り上げられました。毎日新聞専門編集委員である倉重篤郎さんの記事『ニュース最前線』において、紹介されています。詳しくは、谷田川事務所（☎0478-54-5678）にお問い合わせ下さい。



【菅官房長官】

「私は事前に知っておりませんでした。」

【谷田川】

「宮内庁は、皇室が政治利用されないよう守る立場にあるので、宮内庁の方から安倍総理と陛下の写真撮ることを先に言ったとは考えにくい。この経緯をよく知っていると思われる山本宮内庁長官を委員会に呼んでもらいたい。また、官邸とのやりとりを記録した書類や稟議書を委員会に提出してもらいたい。」

【牧原委員長】

「後刻、理事会で協議します。」



『衆議院解散について』

【谷田川】

「官房長官は、先日恣意的な解散は考えられないと述べているが、一体誰が恣意的ではないと判断するのですか？」

【菅官房長官】

「最終的には選挙を通じて、国民の政治判断に委ねるものだと思います。」

【谷田川】

「木村草太首都大学東京教授は、解散する場合 内閣が衆議院で理由を説明し、それを審議することを提唱していますが、どう思いますか？」

【菅官房長官】

「政府の立場として、論評を控えたい。」

【谷田川】

「日本の政治は国家百年の計がない、長期的なビジョンがないと言われ続けています。解散風が吹くと議員は落ち着かない。令和の新しい時代こそ、新しいシステムで、オリンピックも4年に一遍、衆議院選挙も